



歴史と文化の街・奈良、 若い力ではつらつと活動しています。

奈良県言語聴覚士会 坂部 浩一

奈良県は皆さんどんなイメージを持たれていますか？奈良の大仏、若草山の鹿、聖徳太子の法隆寺など懐かしい思い出を多く持たれている方も多いと思います。京都と並ぶ古都奈良は世界遺産も多く「歴史と文化を堪能できるまち」として有名です。今回はそんな奈良県で活動している我々、奈良県言語聴覚士会の活動報告をさせていただきます。

奈良県言語聴覚士会は平成17年3月に設立され、今年で8年目です。現在の会員数は123名で若い先生方が大半を占めています。年間の主な活動は月1回の勉強会、年に2回の研修会と症例検討会を開催し、昨年度から生涯学習にも力を入れております。つい先日も県内で初めて基礎講座と専門講座を丸一日かけて4講座開催しました。

昨年度の大きな活動といたしましては、2回目となる言語聴覚の日のイベント「なら言語聴覚の日の集い2011」を行いました。奈良県脳卒中友の会「桜の会」の失語症合唱団のコンサートと嚥下食や口腔ケア用品、代替コミュニケーションツールの企業展示に加え、奈良県理学療法士会、奈良県作業療法士会の協力のもと3団体会長によるシンポジウム、啓発の一環として、「英国王のスピーチ」を上映しました。今年は言語聴覚士のことをより知っていただけるよう広報活動などにも取り組んでいきたいと考えております。



さらに先日、兵庫県尼崎市で「第1回 近畿地区府県言語聴覚士会合同交流会」が開催され奈良県からも参加させて頂きました。日本言語聴覚士協会会長深浦順一先生による特別講演「これからの言語聴覚士に求められるもの」の他、「各機関の言語聴覚士との連携」についてシンポジウムが開かれました。合同交流会では次回の近畿府県言語聴覚士会のイベントを奈良県で開催することが決まり、学術集会として来年の3月を予定しております。早速、実行委員会を発足させ様々な企画考えていきたいと思っております。

最後になりましたが今後とも、日本言語聴覚士協会の発展をお祈りするとともに、奈良県言語聴覚士会をどうぞよろしくお願いいたします。

